

# ギッシングの世界

全体像の解明をめざして(没後100年記念)

ジョージ・ギッシングが四十六年の短い生涯を閉じたのは、一九〇三年十二月のこと。その没後百年を記念して出版されたのが本書である。

ギッシングといえは、平田杢木や戸川秋楸による紹介以来、日本でもっぱら愛読されてきたのは、随筆集『ヘンリー・ライクロフトの私記』である。自然と人生、読書や文学などをめぐって、雅趣に富む筆致で淡々と語るこの随筆集は、と

呼んだことがある。晩年に執筆されたこの魅力的な随筆集からは、自然の美を賞美する作者の姿勢が、日本の隠者文学にも通じるとしてかつて人気を呼んだことがある。

書刊の重要な目的となつたのである。

芸術や学問の世界に憧れる貧乏学生だったギッシングは、十八歳の時、十七歳の娘と恋に落ちる。ところが、極貧の彼女が街の女にならずにすむようにと思いつめるあまり、学校で盗みをつるはししてしまう。それで遠くは、貧しい労働者たちの

力に逃れたあと、ロンドンでその日暮しの貧乏状態のなかで、作家生活に入るのだが、彼が貧困や疎外感を小説に繰り返して取り上げるのは、そうした経験がトラウマの二つになっていたからであらう。なかんずく長篇『ネザー・ワールド』にも、若い頃から強く魅せられていた芸術や学問の世界への憧れも大切に育んでもいのである。巻頭言でギッシング研究の権威、ビエール・クスがその主要作品のすべてを懇切に解説した本書を読むべ

## 英国世紀末を代表しうる作家の

## 主要作品のすべてを懇切に解説

富士川 義之

捕され放校処分になった経歴を、彼は一生引きずることに。一年ほどアメリカスラム街生活をドキュメンタリー・タッチで克明に描写を通して根気よく論じたのである。また同氏は、拝金主義への彼の抗議が、長年にわたる自然愛好心や自然保護への関心と軌を一にしたものであり、「ディケンスやギヤスケルの流れを汲む初期のエコロジスト」として彼を位置づけてい



A 5判・432頁・4000円  
英宝社  
4-269-71039-X

★まつおか・みつはる氏は名古屋大学助教授・英文学専攻。編著書に「ギヤスケルの文学」翻訳に「ヤスケル短篇集」など。